



フランスの中等音楽教育の仕組み — 現場からのレポート

つる その し き こ
鶴 園 紫 磯 子

フランスの音楽教育の実態を知りたいと思い、パリ地方圏の町オルネー＝スーボア（Aulnay-sous-bois）にある公立音楽院を訪ねた記録です。

これまで「パリ国立高等音楽院」（俗称 パリ・コンセルヴァトワール）や日本からの留学生が多く学ぶ私立のエコール・ノルマルのことは比較的よく知られていたと思います。これらの高等音楽教育機関（日本の音楽大学に相当）の下に全国で400近い中等音楽教育の学校が設立されていることはあまり知られておりません。これらの多くは各県や市町村の予算によって建てられ運営されています。フランスは文化予算の豊かな国としてとっていますが、これらの音楽学校の仕組みを知るにつれ、文化を育てる層の厚さと熱意に感嘆せざるをえませんでした。

オルネー＝スーボアはパリ北駅から電車で15分ほど、シャルル・ドゴール空港に行く途中にある人口8万2千人ほどの町で、自動車や化学工場を擁する典型的な郊外町といえるでしょう。この町に設立された地方立音楽院（略称CRD）は築20年ほどの現代的な建物でした。ここには6歳から20歳くらいまでの子供たち1200人が在籍し、その多くが普通の小中学校の授業を終えてから集まってきます。基本は専攻する楽器のレッスンとソルフェージュの授業。ピアノ以外の人はオーケストラも必修です。レベルは初級4年間、中級4年間、上級は3年くらいで高校卒業の年齢に達します。さらに専攻クラスがあり、そこで「音楽教育修了」の資格試験をめざして学ぶことができます。これらはおよその概要ですから、例外的な生徒がいることはご承知ください。

教育の目的と理念は、音楽による文化的素質の育成、さらにオーケストラやコーラスなどの育成を通じて町の行事や文化活動に参加できる子供を育てることです。大人になってから音楽を愛好する、よきアマチュアを育てることも目的のひとつでしょう。音楽院では年間を通して毎週火曜日に学校のホール（350人収容）で無料のコンサートを開き、また季節ごとに週末の大きなイベントも企画します。町の行事にコーラスや吹奏楽が参加するなど、町全体の文化の活性のために音楽院の活動が期待されていることがわかります。

さて今回は私のパリ音楽院時代の友人、ジャック・G氏がこの音楽院のピアノ科教授で、そのご好意でクラスのレッスンを見学させていただきました。ピアノ科には10人の先生がいらして、それぞれが20～20数人の生徒を受け持ちます。レッスン時間は年齢によって30分から50分程度ですので、総計で16時間の担当だそうです。公立の学校教員ですから公務員として十分な待遇を得ています。

校舎の2階にあるレッスン室にはヤマハのグランドピアノが1台入っていました。5人の生徒のレッスンを聞きましたが、年齢もレベルも様々でした。中国人、ドイツ人の留学生は20代でブラームスのソナタ3番やベートーヴェンの「ワルトシュタイン」を演奏。外国人でも人数に余裕があれば受け入れています。19歳のフランス人の学生は先生が6歳から教えてきた子で、パリ国立高等音楽院の作曲法のクラスに通いながらピアノをこの学校で学んでいるそうです。ラヴェルのソナチネを弾いていました。それから2人の小学生（11歳）がやってきましたが、こちらはまだまだ初級で、ひとりにはバッハのインヴェンション4番、チャイコフスキーのワルツを弾くのですが、あまり熱意がない様子でした。

もうひとりの子供はさらに初級でクラシック曲集の小曲ですが、3連音符のリズムがどうしてもとれずに苦勞していました。

入学にあたって選抜はありませんし、どの生徒にも公平なレッスンが保証されていることを感じました。授業料は設立の自治体ごとに違うようですが、日本の一般的な私音楽教室と同じくらいと聞きました。お稽古^{けいこ}として払う月謝という点では日本と変わらないでしょう。ここで学ぶうちに才能のある熱心な生徒はより上の学校を目指していくそうで、パリ国立音楽院などの高等教育機関では授業料はほとんど無料に近いのです。それは選抜された学生を対象としているからです。

子供たちは各級の終わりに修了の試験を受け、成績が良以上の生徒は次の段階に進級していきます。高校生くらいの生徒たちによるオーケストラの練習も聞きましたが、ここまで学び続けている生徒ですからそれなりによい合奏をしていました。指揮は著名なフルート奏者パトリック・ガロワがとっていました。

こうしてゲストで参加してくださる一流の音楽家たちの協力もあり、子供たちの耳や感性がゆっくと育っていくように思います。

フランスでもクラシック音楽への関心は若い層で急激に減っているという話ですが、その危機感から文化行政の方たちや音楽院指導者たちの熱意ある試みや仕組み^{ねば}づくりが粘り強く続けられている様を感じました。

(国際部 副部長 つるぞの しきこ)



オルネー音楽院のレッスン風景



オルネー音楽院 冬期コンサート プログラム